

2017/09/26～28

6 回目の石巻～女川～名取訪問記

今年も9月26日～28日の3日間、石巻～女川～名取支援学校への訪問に行く事ができました。今回は安田さん、白井さんが参加出来ずに、大島一人での訪問になりました。昨年は岩本浩弥さんがいっしょに行けたのに・・・「女川駅の温泉もゆったり楽しめたのになぁ。」なんてあれこれ思い出しながら、彼のみかた残酷マラソンチャレンジの記録「遙かなるゴールをめざして」を手元に、仙台へ向かいました。

空港からレンタカーで一路、石巻支援学校へ。見学だけの予定でしたが、門脇校長先生の計らいで、子どもたちとのFBM指導をさせてもらえることになりました。貝和教頭先生、担当の千葉先生に案内してもらいながら、小学部から高等部の児童、生徒とのFBMを試みました。3年前に届けたボディボールに加えて、あずま袋に入れた小さなふわふわボールを活用して、子どもたちにリラックスしたり姿勢を整えたりするアプローチの体験をしてもらいました。子どもたちの緊張がほぐれて、背中がまっすぐになったり、一人で腰かけ座位が保てるようになったりと短時間のかかわりでしたが変化してくれて良かったです。先生方

もその様子を見てもらえて、FBMへの関心を持ってくださり、子どもたちとのかかわりに役立ててもらえる機会になったようです。

コンビニ弁当をほおぼった後、第二ひたかみ園「SORA」へ。3回目の訪問になるので、利用者さんや職員の方々ともすぐに馴染めて、個別的にFBMを取り組ませてもらいました。寝たきりでそりかえりの強い方がリラックスできて、ボールにからだをうまくあずけて座位姿勢が保てるようになる様子も見てもらいました。また、動きの大きい方と一緒にボールで楽しむ方法も体験してもらいました。児童デイセンターの職員の方も見学に来られていて「私の所にも来てほしい。」との希望も聞かせてもらえて、次につながる予感もしました。

一人ひとりの可能性を信じて、心身の状態や課題によって工夫しながらするアプローチをすることで、より本人のできることを広げたり、姿勢や動きを改善したりできることを、職員の方々にも感じてもらえたようです。



伊勢知那子さんとの

F B Mでのかかわりスナップ

ひたかみ園の後は、伊勢知那子さんのご自宅にも訪問させていただきました。11月の神戸でのチャリティーコンサート以来の再会ができて嬉しかったです

今回は、家にも訪ねさせてもらって、家での様子も見させてもらい、芯の強い知那子さんの一面も感じる事ができて良かったです。小さいボールを入れたあずま袋も、普段の生活で役立ててもらえそうなアイデアもお伝えできたので、少しずつ知那子さんに合わせた方法を工夫してもらえると感じてきました。知那子さんの取材のDVDや写真も見せてもらって、いろんな場面でガンバって来たご家族の温もりも感じさせてもらいました。特に、震災後の避難所での生活の一端や転居されてからのことを見聞きすることができて、地域の方々とのつながりの必要性を改めて感じさせてもらいました。周りの方との関係を丁寧につないで来られているお母さんの姿勢、前向きな生き方に学んで行きたいです。

夜は片岡先生とお会いして、地元の美味しい鮎をいただきながら、深い話も聞くこともできました。石巻駅近くの笑門館という地元旅館に宿泊。朝5時22分に緊急地震警報が！

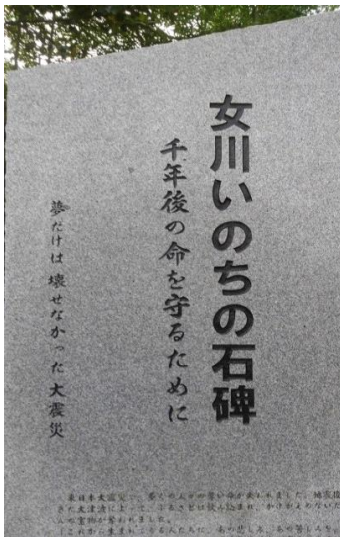
思わず飛び起きて、一瞬考えてユニットバスへ移動。ゆるりとした揺れが数秒続いただけでおさまり安堵。青森での地震だったようで、東北での余震が今も続いているのも実感しました。いつでもどこでも、自分の命、そして、人の命を守るため、瞬時の適切な対応を心がけたいです。

次の日は女川港へ。昨年見かけた道路沿いの仮設住宅が見当たらず。きっと移転先が

決まったり、新しい復興住宅も建てられていたりしたのだろうと勝手に想像していた。住宅等の再建が進んでいることを願いながら・・・。

今回の訪問の一つの目的は、「女川いのちの石碑」を訪ねること。女川駅について、駅周辺の再開発の様子を見てから、女川フーチャーセンターで聞き、女川町役場～教育委員会（仮設的なプレハブの建物やった）を紹介してもらって訪ねると、教育長が私を部屋に迎え入れてくださり、ビックリ・ポン！（こんな朝ドラのセリフ、あったよな？）

村上教育長に、これまでの経過や思いを伝えると、片岡先生とも旧知の仲でとのことで話が進み、わざわざ第1番目のいのちの石碑がある、女川中学校まで案内してもらいました。山内教頭に依頼してすぐさま仕事に戻られましたが、一期一会に、ほんまに感謝です！



山内先生は、震災時から女川中学校に勤められておられて、
震災

直後の被災や避難の様子、学校での取り組み、子どもたちのケアから石碑の経過まで、丁寧に話を聞かせてくださいました。物静かな語り口調の中に、温もりと優しさを感じさせてもらう先生との良き出逢いでした。きっとこれからも子どもたちの心の理解と支えを丁寧に続けて行かれること間違いないですね。

第一号いのちの石碑には、「夢だけは壊せなかった 大震災」の俳句が刻まれていました。そして、女川中学校の玄関正面の壁には6年経過した今でも、子どもたち一人ひとりの直筆の俳句色紙が掲示されていてその当時の心情がずしりと伝わってきました。

震災体験をした女川中学校の卒業生達が、1000年後の命を守るために、女川町内に女川いのちの石碑を作ることを思い立ち、21カ所に建立する計画をして、現在14カ所に建てられている。彼らは今も仲間が集いながら、今年3月に「女川いのちの教科書」を完成させました。次世代に震災体験を引き継ぎ、命を守る活動を続けていること、本当に素晴らしく頼もしい限りです！

その後、女川のつながる図書館にも行かせていただきました。来年度には新庁舎内に移転するという話も聞かせてもらって、継続発展の道が開かれていてうれしかったです。

午後からは名取支援学校への訪問。松平幸子先生の案内で、早速子どもたちとF B Mのかかわりがはじまる。小さいボールを使ってからだほぐしから、さまざまな大きさのボールを使っての姿勢保持や動きづくり等、一人ひとりに合わせたF B Mを満喫しました。放課後には、希望の先生方とのF B M体験研修もあり、熱心に参加していただき、学校での取組に役立ててもらえると期待しています。

最終日は、重い障害のある子どもたちとのF B Mから、知的障がいの生徒とのグループF B M。張り切ってやってくれる子どもたちのおかげで、めっちゃ楽しい時間ができました。F B M研究会の植山さんが作ってくださったあずま袋とプチソフトボールを届けて、その使い方も伝えることができて良かったです。植山さん、ありがとう！

調理員の方の手作り給食をご馳走になる。美味しい給食に大満足してきました。

終了後には、若い男性教師から、教室に入れなくなっている児童の相談も受けることになり、真剣に子どもの指導のあり方の話ができ嬉しかったです。明日からの子どもとのかかわりに生かしてもらえると期待したいです。

佐藤校長先生、今年も担当してくださった松平幸子先生はじめ、名取支援学校の先生方に色々お世話になりました。

大阪・神戸から「いのちの石碑プロジェクト」を少しでも応援できればと、昨年に3回のチャリティーコンサートやオークションの企画、開催をして、収益を「いのちの石碑プロジェクトを支える会」代表の山下由希子さんを通して寄付をすることができました。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

一人旅で珍道中にはなれへんのが残念でしたが、良き出逢いがたくさんあった今回の仙台訪問、片岡明恵先生がつないでくださったおかげです。

また来年、第7回目の訪問ができるように願っています。

2017年 秋
文責 F B M研究会 大島昇

Ps. 「いのちの石碑プロジェクト」と「いのちの教科書」クラウドファンディングサイト

を参照していただき、活動の理解と協力をしていただけると嬉しいです！